



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達的气になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

4～9月までの相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	112件	255件	25件	8件	8件	408件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



いろいろな学校や園からの依頼を受けて、様々なクラスを訪問し、いろいろなお子さんを参観させていただいています。

今回は保育園に通っている3歳のA君の支援方法について紹介をします。

担当の保育士さんからの相談の主訴は「トイレに行きますよ」や「外遊びから教室に入りますよ」など一斉の場面で指示をされても行動できないというものでした。

実際に参観したのは教室だったので、トイレに行く場面が3～4回あったのですが、他児がスムーズに移動する中で、一人だけ動かずイスに座っていました。朝の会が終わった後、制作の活動が終わった後、給食が終わった後など、活動の区切りではクラスの幼児達は保育士に声を掛けられてトイレに行きます。歌も歌うし、制作は好きで教師の一斉指示を聞いて意欲的に活動するのですが、本児はトイレに行く場面になると、個別に声を掛けられても動かず、嫌がって歩かない

ので抱えられてトイレの入り口に行っていました。トイレの前で靴を脱ぐのも時間がかかりますが、その反面、目を離すと隣の教室に走って行ってしまい、教師が追いかける状況でした。本児を戻してトイレの中に連れていくと、にこにこしながら便器に数秒座り、すぐに出てきます。靴を履くときには、すでに、教室の中で紙芝居が始まっており、今度は紙芝居に目が釘付けになり、靴を持ったまま、手が止まっている状況でした。紙芝居が1冊終わると、2冊目を要求していました。

観察から推測できることは、A児は一斉指導で制作など活動をやりとげる知能と注意力があり、トイレの促しについては個別にも声を掛けています。指示は伝わっています。さらに、A児の行動が阻害されるような友達の動きもなく、トイレ自体を嫌がったり、怖がったりする様子は見られません。多分、トイレに行くのは靴や洋服を脱いだり、着たりする工程が多く、A児にとっては興味を持たないのだと思います。反面、保育士にトイレにつれて行ってもらう行為は、A児にとっては触れあえることで楽しみだということもわかりました。

そこで、興味を持ってトイレに行ってもらうために、案①として「A児を早めにトイレに誘い、トイレから出たらどの紙芝居を見たいかを保育士に伝える」、案②として「トイレ表を作って、トイレに行けたらシールを貼ってもらう」の2つの案を提示しました。

結果的には、保育士さんのやりやすいトイレ表を採用し、A児はシールが枠一杯にたまることを励みに、自分からトイレに行くようになりました。

自ら活動できるようになる方法は子どもによって変わるので、子どもをよく観察することは大切ですね。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

(アドレスを変更しました)

